

トンガ王国・エウア島における短期還流型労働者がもたらす多面的な影響

Multifaceted Impacts of Short-Term Seasonal Workers

in 'Eua Island, Kingdom of Tonga

大学院人間文化創成科学研究科
ジェンダー社会科学専攻 M2 伊藤有未

1. 要約

(和文)

トンガ王国（以下、トンガ）をはじめ、南太平洋島嶼国の一部地域において、一定期間を国外で過ごし稼ぎを得て母国へ戻るといった労働移動を繰り返す「短期還流型労働」が盛んである。これによる稼ぎは、国内に住む人々の生活に直結しており、生活費や学費といった日常的に発生する支出だけでなく、短期間に大金を得られるとの理由から、大金を要する物品購入や献金の際に大きく貢献している。短期還流型労働がもたらす多面的な影響が、今後のトンガの開発とどのように関わってくるかを調べることを本調査の目的とした。調査は、トンガの離島の1つであるエウア島にて、半構造化インタビューと参与観察を行った。インタビュー結果として、短期還流型労働者によって、トンガの人々の生活は豊かになっているといえるが、その豊かさは当該の世帯ないし親族単位にとどまり、トンガ社会全体の開発に貢献しているとは言い難い。労働者の国外流出はトンガ国内の労働力不足にも影響を及ぼしているが、今後は世帯間での格差を広げる一因になることも推測できる。このような状況が、若年層をさらに国外労働へ向かわせる要因となり、世代を超えて還流的な移動が続いていると考察できるだろう。

(英文)

In the Kingdom of Tonga and some other South Pacific Island countries, "short-term seasonal work" is a popular labour mobility to earn money outside of their countries. Earnings from this labour mobility are directly related to livelihoods, and it contributes greatly not only to daily expenses but also to the purchase of expensive goods and some social obligations, because of the large amount of money that can be earned in a short period of time. The purpose of this study is to investigate how the multifaceted impact of the short-term seasonal work leads to the future development of the Kingdom of Tonga. In this research, the researcher conducted semi-structured interviews and observations on the 'Eua Island, one of the outer islands in the Kingdom of Tonga. As a result of the interviews, the individual lives have been improved by the short-term seasonal workers, but this improvement is for the households or kinship units, so it is difficult to say that this mobility contributes to the development of the whole society. Due to this labour mobility, labour shortage has been a serious problem in the

Kingdom of Tonga. At the same time, it is surmised that gaps among households are widened, which can strengthen the desire to work outside the country, especially among the younger generation.

2. 現地調査期間：2024 年 7 月 30 日～9 月 18 日

3. 調査背景

トンガ国外に住む定住者と豪州やニュージーランド（以下、NZ）との往來を繰り返して稼ぎを得る季節労働者¹からの送金はトンガ国内で暮らす人たちの生活を支える重要な財源となっている。2022 年時点で、トンガにおける GDP に対する個人送金の受取額の割合は 45.0%（THE WORLD BANK 2024）であり、トンガから海外への労働移動は、1960 年代頃から現在に至るまで、派遣形態を変えながらも続いている。現在、トンガ内務省を通して管理されている労働者派遣プログラムは、認定季節雇用者スキーム（Recognised Seasonal Employer：RSE）という NZ への派遣と太平洋・豪州移住労働制度（Pacific Australia Labour Mobility scheme：PALM）という豪州への派遣の 2 パターンが存在する。

首都ヌクアロファのあるトンガタブ島に限らず、この労働移動は、トンガの各島から起きており、トンガの人々の生活を維持・向上するための大切な役割を担っている。Tonga Statistics Department（以下、トンガ統計局）が 2021 年に公表した国勢調査によると、トンガの離島であるエウア島全 931 世帯のうち 275 世帯からトンガ国外へ労働者が派遣され、当島から労働移動へ参加する世帯は約 30%にまで及び、世帯数に対する労働移動への参加は、他の主要 4 島（トンガタブ、ヴァヴァウ、ハアパイ、ニウア）と比較して、1 番高い数値となっている。そして、国際情勢が安定しない今日、労働受入国が機械化を促進して雇用機会の創出に消極的となれば、その人件費削減の波は、短期還流型労働者を多く送出する太平洋島嶼国の人々の生活に直接影響してくると思われる。

4. 調査目的

筆者は、2024 年 2 月 20 日から 3 月 8 日の 18 日間、予備調査としてトンガへ渡航した。2022 年 1 月 15 日に発生したフンガ トンガ・フンガ ハアパイ海底火山噴火（以下、HTHH 噴火）の発生および新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19）規制緩和以降初めての渡航ということもあり、予備調査では、これらの出来事が人々の日常生活にどのような影響を及ぼしているのかを調査の焦点とした。これらの影響によって、COVID-19 や噴火以前から続く定住移民や短期還流型労働者の動きに、どのような変化が見られたのかを重点的に考察した。予備調査を踏まえ、本研究では、数多くあるトンガの離島の中でも、首都のある

¹ 本稿では、就労目的で 1 年のうちの数ヶ月を海外で過ごして母国に戻るという移動を、2 年以上繰り返している人たちの、「短期還流型労働者」として定義する。

トンガタブ島から近くて人口の多い離島・エウア島にて、短期還流型労働者の経験や暮らしぶりに着目し、短期還流型労働移動によるトンガ社会への多面的な影響について調べることを目的とした。

5. 調査方法

調査方法は、主に現地における参与観察とインタビュー調査である。前者は、エウア島においてトンガ人宅に住み込むことで、短期還流型労働者のいる日常生活のあり様とそれを取り巻く状況について観察した。また、2024年2月の段階からどの程度 HTHH 噴火の復興が進んでいるかについても、エウア島内を複数回巡回した。インタビュー調査は、お茶の水女子大学人文研究科学研究の倫理審査委員会の承認を得たうえで(承認番号2023-148)、2024年8月12日から9月14日の間に、エウア島に住む短期還流型労働者本人あるいはその家族10人を対象に半構造化インタビューを行った。調査者は、2018年6月から2020年4月まで、JICA 海外協力隊（以下、協力隊）として、農業・食料・林業省エウア支局女性開発部で活動していた。協力隊当時および予備調査時において築いた人脈を活かして、今回の調査協力者の選定には、スノーボールサンプリングを適用した。インタビューは、調査協力承諾書での同意を得て、基本調査協力者の自宅敷地内で実施したが、状況に応じて、職場での実施1人と2度目の追加調査を1人屋外で行っている。筆者が事前に作成した質問票に基づきながらインタビューをし、その内容をフィールドノートに記録しながら、ボイスレコーダーで録音データを残した。インタビューの所要時間は協力者により異なるが、1人の協力者に対して複数回インタビューを実施しており、1人当たり数時間程度に及んだ。

上記に加え、短期還流型労働者の実態をより詳細に理解するため、トンガタブ島にある中央省庁（農業・食料・林業省、内務省、人事院、トンガ統計局、貿易・経済・開発省、教育省）を訪問した。同上の理由で、エウア島滞在期間中は、内務省エウア支局、島内に2校ある中高等教育学校、Women Children Crisis Centre（以下、WCCC）などを訪れた。

6. 調査結果

(1) 調査協力者の概要

今回は、エウア島に住む28歳から63歳の男女10人に半構造化インタビューを実施した。インタビューは、調査協力者の語学力に応じて英語およびトンガ語にて対応した。調査協力者の属性は、表1にまとめたとおりである。10人のうち、C氏、D氏、I氏は短期還流型労働者の親族であった。短期還流型労働者の経験をもつC氏の夫、D氏の娘にも話を聞いたが、主に聞き取り調査を行ったのが親族であったため、表1ではその結果を示している。次の表1では、一部のインタビュー項目の結果のみを記している。D氏とI氏の家族からは、1人以上の短期還流型労働者を派遣しているが、表1では、インタビュー時点で1番渡航経験の多い人の回数を表記している。

表 1 調査協力者の属性とインタビュー内容

	A氏	B氏	C氏	D氏	E氏
年齢	52	48	46	63	28
性別	男性	女性	女性	女性	女性
労働者本人か	本人	本人	夫	子	本人
行先	NZ	NZ	豪州	NZ・豪州	豪州
現在の渡航	継続中	終了	終了	継続中	継続中
渡航回数	14	3	5	4	2
短期還流型労働者となった目的	子どもたちの学費を工面するためと食費の確保。	家族を助けるため。	自分たちはとても貧しく、畑とカヴァを育てて生計を立てていたが、収穫までに時間がかかる。いい家に住んでいるわけでもなく、十分なお金がなかった。寒い時期になると、寒気や雨が入ってくるような家だった。	①短期間で大金が得られ、家族での集まりやニーズへの助けとなる、②息子に豪州やNZの素晴らしい環境を見てほしかった。	教会や村といったコミュニティに対する社会的責任に近い献金（ <i>kavenga</i> ）など、短期還流型労働に行くことで家族の助けとなる。
国外に定住しない理由	家族全員で移住できるならしたいけど、NZの移住のプロセスやルールがあるわけで、トンガタブ島とエウア島の移動というわけにはいかない。	トンガで暮らすのが好き、トンガではただでご飯にありつけるが、NZでは滞在費や食費などすべてにお金がかかる。	NZや米国など国外での生活は時間感覚が異なる。国外ではホームレスになってしまうが、トンガでは自分たちの土地で農作物や家畜があり、十分なお金がなくとも生きていける。	移住でなく行き来の方がよい。豪州やNZでは買い物しかり、すべてのことにお金がかかるが、トンガでは無償でどうにかなる。	豪州やNZの市民権を得るプロセスを知らない。どのくらいの期間やその方法が難しい。もしその手続きが容易であれば、すでに移り住んでいるかもしれない。
	F氏	G氏	H氏	I氏	J氏
年齢	42	35	57	55	43
性別	女性	女性	男性	女性	男性
労働者本人か	本人	本人	本人	夫、子	本人
行先	NZ・豪州	豪州	豪州	NZ	豪州
現在の渡航	終了	継続中	終了	継続中	終了
渡航回数	4	2	2	17	7
短期還流型労働者となった目的	家族のためにお金を稼ぎ、車の購入、（家財道具の購入も含む）家の建築、ビジネス展開にあてること。	学費など子どもたちを育てていく上での助けとなり、家族の助けとなるため。	①車の購入、②社会的責任に近い献金（ <i>kavenga</i> ）への資金工面、③豪州を見て新しい視野を広げたかった、④新しい人たちや環境の中で共存してみたかった。	家族、教会、村（への資金援助）を助けるため。	①収入を得ることで、家族を助けるため、②トンガ国外へ出て、どのような環境であるのかを単純に見てみたかった。
国外に定住しない理由	トンガでも生活することができる。	家族とトンガに住んでいて、両親を国外に行かせたくない。	トンガに住む方が好き。国外ではすべてにお金がかかる。トンガには（自身の）土地や家があるが、NZはすべてに支払いが発生する。NZでは大金を稼げるが大きな支出を伴うことになる。	—	（短期還流型労働の経験を経て、）トンガ国外で働くことについて理解しているし、トンガに住む方がよい。豪州では時間どおりの行動が求められるがトンガはそうでない。

※年齢は 2024 年から生まれ年を引いて算出している。

※現在の渡航は、インタビュー時点での渡航状況を示している。

出所：インタビュー内容を基に筆者作成

(2) 短期還流型労働者としての渡航目的

調査協力者の労働移動で稼いだ収入の使用目的は、家の建設・増築、車の購入、学費の支払い、冠婚葬祭や教会への献金など多岐にわたるが、彼らがこれらを下支えする「家族への金銭的支援」という理由で労働移動を決断している点は共通していた（表 1）。そして、トンガで生活する上で日常的に発生する生活費や学費、社会的役割を果たすための各所への献金といった多額の支出に充てることだけでなく、よりよい生活を求めて、①家の建築・増築、②車の購入、③ビジネス展開というように支出目的には段階性がみられた。③のビジネスに関しては、トンガ内務省海外雇用部門が運営する Facebook に、短期還流型労働の成功例として、季節労働ないし短期還流型労働を経て、現在トンガ国内でビジネスを行っている人たちのインタビュー動画が定期的に紹介されている。今回の調査協力者の中にも、その動画の存在を知る者もいた。また、「トンガには仕事が少ない」、「給与が低い」や「短期還流型労働により大金を一瞬にして手に入れることができる」という発言も多く、多くの調査協力者が自らの意思で渡航を選択していた。

次に、将来的な国外移住を目指すのではなく、なぜ短期還流型労働を選択するのかという理由について、「労働受入国である豪州やニュージーランドでは家賃を払うがトンガではその必要がなく、豪州や NZ では働かなくては食べることもできないが、トンガではそのような事態には陥らない」という回答が目立った（表 1）。

調査協力者本人からは、トンガの物価高を指摘する声はあまり聞かれなかった。しかし、参与観察の中で、筆者が協力隊として在任していた期間と比較すると、農作物の値段も大幅に上がっている。例えば、4 年前に 3 パアング（約 180 円）だった野菜は、現在 5 パアング（約 300 円）となっていた。農業・食料・林業省によれば、トンガの主食であるイモ類に関しても、サイズや量で調整されていたり、全体的な販売価格が上がったりしているという。

(3) 半年間（2024 年 3 月から同年 8 月）での HTHH 噴火復興具合

2022 年 1 月 15 日（土）に発生した HTHH 噴火により、ハアパイ諸島およびエウア島を含むトンガタブ諸島を中心に、火山灰だけでなく一部沿岸地域では深刻な津波の被害を受けた。トンガタブ島北東に位置し、被害に遭ったマンガ島の人々に対しても救済措置が取られ、今もなお一部の住民はエウア島内の仮住居で暮らしている。2024 年 2 月の予備調査時は、マンガ島の人々の新しい生活拠点となるエウア島最北部のハウマ村とタアング村との間の地区の開発は、ほぼ更地に近い状態であったが、半年経った今回の訪問では、すでに家の骨組みと外壁が終わっていた（写真 1 および 2）。当復興支援プロジェクトの担当者に話を聞いたところ、今年 11 月頃の完成を目指しており、「今年のクリスマスは、この家で家族みんなで過ごしてほしい」と話していた。しかし、2024 年 9 月 30 日付けの新聞 *Matangi Tonga Online* によると、「作業員不足のため、建設が遅れている。多くの国内労働者が季節労働雇用プログラムに参加し、人手不足により全体の着工の遅れとなっている」という。

また、エウア島で最も被害が深刻であった島西部の沿岸地域で住居が全壊した人々は、予備調査の段階で、オホヌア村でも高台に位置しているトンガ政府が支援した住居に生活拠点を移していた。半年間の変化として、そこで暮らす人たちの中には、自分自身で家の増築や家の周りに草木を植える様子が見られた(写真3)。半年間で見られたもう1つの変化は、HTHH 噴火の津波により全壊した政府機関の建物である。現在、一部の政府機関は、学校の一部屋や教会のコミュニティホールを仕切って業務を行っているが、噴火から2年半以上が経った今、海沿いから離れた地域に新オフィスの建設作業が進んでいた(写真4)。

HTHH 噴火の復興と直接的には関係しないが、エウア島で見られた変化として、エウア島滞在期間中に Caledonian Sky という客船の停泊が2度あった(2024年8月30日および9月2日)。港への着岸はできず、乗客たちは小型のゴムボートに乗り換えて、エウア島に上陸していた。島民の話では、客船がエウア島に来るのは初めてのことだという。客船を見に港へ行く人たちや出店を構える人など、一時の話題となっていた(写真5)。



写真1_マンゴ地区 (2024. 2)



写真2_マンゴ地区 (2024. 8)



写真3_家の一部を増築@オホヌア村



写真4_建設中の政府機関の建物



写真5_客船と移動するゴムボート



写真6_トンガの畑の様子

(4) トンガ中央省庁や諸団体が認識している短期還流型労働の利点と問題点

短期還流型労働者に関する研究を進めるにあたり、各機関への訪問は、トンガにおける短期還流型労働者の実態を知るだけでなく、各省庁が認識している短期還流型労働の影響を理解することにつながった。それぞれに得られた情報の概要は、表 2 のとおりである。

表 2 訪問先とインタビュー概要

訪問先	インタビュー概要
首相官邸リーダーシップ部門	(研究調査および査証申請の手続き)
農業・食料・林業省	当省が認識している短期還流型労働者の利点と問題点
内務省 (トンガタプ本局)	短期還流型労働者の推移や派遣フローの確認
人事院	トンガ政府職員の待遇や雇用概要
トンガ統計局	国勢調査内にある季節労働者に関する項目
貿易・経済・開発省	当省が認識している短期還流型労働者の利点と問題点
教育省	当省が認識している短期還流型労働者の利点と問題点
国土・天然資源省	トンガタプ島およびエウア島の地図の依頼
内務省 (エウア支局)	調査協力者の選定依頼、季節労働者派遣のフロー
エウア中高等教育学校	トンガ公立学校の学費および当校の T-VET 制度 日本語教育の授業見学
ハウファンガハウ 中高等教育学校	トンガ宗教系学校の学費および当校の T-VET 制度
WCCC エウア支部	女性や子どもを中心に起きている社会問題とは何か
JICA トンガ支所	現在の JICA 海外協力隊の活動
トンガ国内の研究者 2 名	(労働移動を研究テーマとする 2 名より情報収集)

出所：インタビュー内容を基に筆者作成

7. 考察

(1) 数十年前と変わらない渡航目的

比嘉 (2016) は、2004 年から 2010 年の間に、通算約 1 年 3 ヶ月間トンガに滞在し、季節労働者² 14 人に聞き取り調査を実施している。ここにおいても、季節労働に従事する理由として、14 人中 4 人が自宅の増改築と回答している。また、多くの人が学費の工面もその理由に挙げている。このように、調査対象地は異なるにせよ、数十年前から現在まで短期還流

² 14 人各々の渡航回数は記載されていないため、ここでは「季節労働者」と表記した。

型労働に従事する理由にあまり大きな変化が見られない。この渡航理由に大きな変化が見られないことで、一見トンガの経済や開発は停滞した状態にあるかのように映る。しかし、ミクロの視点からみれば、この数十年で起こる世帯成員の変化や消費財の買い替えなど、世帯ないし親族単位での変化は確実に起きている。つまり、数十年と渡航目的自体が変わっていても、短期還流型労働の恩恵を受ける人や購入する製品などは時代の変化に合わせて異なっているといえそうである。世代を超えて、短期還流型労働者の存在が、トンガで暮らす人たちの生活に日々貢献していることが分かる。

また、短期還流型労働者たちが「トンガには雇用が少ない」という一方で、トンガ国内に求人がまったくないわけではない。例えば、トンガで商業農家をしている K 氏によれば、「従業員を募集しても、働き手が集まらない」と話す。予備調査および本調査時、筆者はトンガタブ島にある商店 (*fale koloa*) の店前に貼られた手書きの従業員募集の紙を見ている。つまり、職を求める人たちと待遇をできるだけよくして働き手を待つ企業の間、雇用条件のミスマッチが起きている。これは、6. 調査結果 (3) に紹介した *Matangi Tonga Online* による労働力不足の指摘とも関連してくる。労働力を獲得するため、国内の雇用主も賃金を上げるなどの対策を講じているようだが、現時点では十分な人材確保には至っていない。仮にトンガで豪州や NZ と同額の給与を得られるとしたら、その労働力は他国へ流れずにトンガの発展に直結するののかという点については、今後改めて検討しなければならない課題である。

(2) 国外移住でなく、短期還流型労働を繰り返す理由

トンガでは、憲法で定められた土地は、王、貴族、政府のいずれかの管轄地となっている。須藤 (2008:88) によると、「土地の使用権は、貴族に借地料、政府に税金を納めている限り、永久に使用が認められ、長男相続が優先された」という。長年住み続けているエウア島への愛着もあると推測するが、将来的な国外移住を目指さずに短期還流型労働者としての移動を繰り返す背景には、「トンガでは土地代や家賃を払う必要がない」という調査協力者の発言からも、このトンガの歴史的な土地制度が大きく関係していることが考えられる。

また、トンガの人たちの多くは、自分自身の所有する畑 (写真 6) で採れる農作物があるだけではない。貨幣経済とは異なって、彼らは食料が無償で手に入るような物資調達ネットワークを形成・維持している。教会への献金や家族行事など社会・慣習的に一定の多額の支出がある中で、トンガの人たちにとって、家賃や食費をできるだけ抑えることのできる環境は、移動という労力を繰り返しながらも失いたくない、最低限度の生活を営むための大切な財産とも言えるだろう。この生活基盤だけでなく、トンガからの短期還流型労働者は、トンガ国外に定住する親族や世帯ないし兄弟から短期還流型労働者などセーフティネットに守られた状態で渡航できる。これらの理由からトンガを離れることへの抵抗が少ないと考えられる。つまり、短期還流型労働者とは、世帯ないし親族内における資金・物資調達を主目

的とした派遣員であり、トンガ社会全体への貢献や還元とはならず、現状は還流的な世帯ないし親族間での消費レベルにとどまっている。

(3) 短期還流型労働者を辞める分岐点

短期還流型労働を 10 回以上繰り返し、NZ にいる雇用主との間で次タームの派遣チームの調整を行う「レジェンド」のような人たち（特に A 氏と I 氏の夫）は、彼らの家族成員からも短期還流型労働者を輩出する傾向にある。一方で、すでに短期還流型労働を辞め、トンガで生活基盤を築いている人たちの多くには、トンガ国内でのビジネス展開や安定した職にプラスして副収入を得られるような日々の生活での工夫が見られた。また、上記の「レジェンド」2 人に対して、「仮に NZ がトンガからの労働派遣を求めなくなった場合、どのようにして生活していくのか」と尋ねると、両者共に「畑での農作物等で生計を立てていく」と答えた。これは、彼らが短期還流型労働者となる前に戻ることを意味する。彼らの子どもたちも短期還流型労働者として働き、自身の年齢的な問題もあるだろうが、上記（2）で述べた最低限のインフラとこれまでの短期還流型労働の稼ぎによる物品購入により生活基盤の向上に成功しているため、トンガでの再就職を試みるような様子はなかった。したがって、短期還流型労働経験者たちは、短期還流型労働の経験を社会で活かすというよりは、トンガでの起業・経営展開も含めて、「個々でどのように生活を豊かにしていくか」といった点に焦点が当たっている。

短期還流型労働をどのくらい繰り返すかは、短期還流型労働者の労働移動への考え方によって異なる。具体的には、トンガ国外で働くことを楽しむ人、生活が安定するまでの忍耐の期間として捉える人など様々である。また、その繰り返しの回数は、短期還流型労働者本人のモチベーションだけでなく、その短期還流型労働者を支えているトンガ国内の家族の意向や彼らの節約・貯金術とも関係してくるようである。

そして、短期還流型労働による次なる影響として考えられるのは、「格差」とであると推測する。国内外に張り巡らされた親族ネットワークにより、極度の貧困に陥るといったことはない。しかし、現状ではトンガ全体での生活の質の改善とは言い難く、インタビューでの結果をみても、短期還流型労働者の稼ぎは、主に家の建設・増築や車の購入などに費やされ、世帯ないし親族単位での生活の質の向上となっており、今後特に消費財の内容や量といった物質的な差異がより顕著に表れてくるのではないかと考えられる。二次的影響として、この目に見える変化が若年層を中心に、短期還流型労働者に行きたいと思わせる可視的なきっかけを生み出しているのかもしれない。

(5) 小括

上述した内容に共通する点は、短期還流型労働者によって、人々の生活は徐々に豊かになっているといえるが、その豊かさは当該の世帯ないし親族単位にとどまっているのではな

いかと考察できる。つまり、短期還流型労働は、各々がトンガ国内外に張り巡らされた人脈を駆使して、自らのあるいは家族の生活を豊かにしようとの個々の試みと化し、現時点においては、国家としての経済発展にまでつながらないため、最終的にトンガ全体に大きな経済的变化が起きているようにはみられない。今後、トンガ政府が短期還流型労働者による社会還元をどこまでどのように求めるかが、将来のトンガの開発を考える上での 1 つの指標となるのではないかと考える。

トンガの人々の生活を豊かにするというポジティブな理由の一方で、短期還流型労働者の派遣に伴い、トンガ国内に残る家庭が抱える課題も問題視されている。トンガの人々の生活に直結する労働移動であるがゆえ、政策動向などを引き続き注視する必要がある。

8. 今後の研究への展望

今回の調査は、トンガの短期還流型労働者に着目した。トンガで調査を進めていくと、短期還流型労働者を取り巻く状況として、更なる研究調査を要する項目が出てきた。具体的には、①個人資本のステータスを示すともいえるトンガの家と短期還流型労働者による稼ぎとの関係性、②トンガ独自の土地所有制度からみるトンガ国内の労働力と産業の発展具合、そして、③個人が所有する家の建設・増築や畑事業の拡大によってもたらされる社会問題などである。短期還流型労働という研究題目 1 つでも、このように短期還流型労働者とトンガ国内の開発に連動する要素が数多く残っている。以上の点も交えて、短期還流型労働の持続可能性とトンガの開発との関係性について、さらに研究を進めていきたい。

参考文献

- 須藤健一 2008.『オセアニアの人類学—海外移住・民主化・伝統の政治』風響社.
- 比嘉夏子 2016.『贈与とふるまいの人類学 トンガ王国の〈経済〉実践』京都大学学術出版会.
- Matangi Tonga Online 2024 Building of new homes at 'Eua for Mango community delayed by labour shortage. <https://matangitonga.to/2024/09/30/building-new-homes-eua-mango-community-delayed-labour-shortage> (最終閲覧日：2024 年 10 月 2 日)
- THE WORLD BANK 2024. Personal remittances, received (% of GDP) - Tonga <https://data.worldbank.org/indicator/BX.TRF.PWKR.DT.GD.ZS?locations=TO> (最終閲覧日：2024 年 10 月 22 日)